

料金後納郵便

OFFICE HARMO INC.

ゆうメール



お仕事、家庭、いろんな場所で、「きっと役に立つ情報?!」をお届けします!

喜田菜穂子の季刊誌 ハーモマガジン 31 秋号 「人を育てる⑨」

自立を育てる習慣 (自立型支援方法) その6

いつもありがとうございます。

最近、60歳を目の前にして、自分自身の仕事のやり方や健康への考え方が少しずつ変わってきています。

無理をせず、水の流れのように生きていきたい…。

そんなふうを考えています。人生の収穫期に入ったことで、大切な信念も磨きがかかり、その信念だけははっきりくっきり持ち続けていくつもりです。

改めまして、今回も25号から始めている「主体的に生きる自立力」の育て方(自立を育てる14の習慣より)をお伝えしたいと思います。(HPも一新し、近況もアップしていますので、お時間があればお訪ね下さい(<http://kidanahoko.jp/>))

「自立した人」とは

一人ひとりが自分で考え、壁を乗り越える力を身につけていること。何か問題が生じたとき、他人への責任転嫁(他責)ではなく、つねに当事者意識を持ってあたること

■自立を育てる14の習慣 NO.6

コミュニケーションの意図について、いつも意識を向ける

コミュニケーションは、実は、伝わったことがすべてです。親子関係でも、親は良かれと思って子どもにいろいろと言いますが、子どもには逆効果ということがよくあります。「意図」とは目的のこと。関わる側は、今の関わり方が、「相手の本当の願いに向っているか」「それが効果的か」など、いつもその意図(目的)を確認、検証しながら関わるのが重要です。

【エピソード】こんな結果が本当に欲しかった?

あるファミリーレストランでの、2人のビジネスマンの会話。どうも上司と部下の関係で、部下が何か大きな失敗をし、それについて話しているようでした。

上司は感情が抑えきれず、部下に対して怖い顔でしゃべり続けていました。部下は何も話さず、うなだれたままの約40分間。その後、上司はレシートを取って清算し、2人は出て行きました。上司がお金を払っている間の部下の表情には、自己嫌悪や自己否定だけでなく、上司へのわずかな憎しみまで見えました。彼はただ責められるだけ。きっと辛かったことでしょう。

上司は、部下に対して、「もうこんな失敗をして欲しくない」「もっと良くなって欲しい」「やる気をもってこれからの仕事を改善してもらいたい」と思い、忙しいのに時間をつくったはず。しかし、部下に生まれた感情は、「失敗を責められている私はダメな社員だ」「昔の上司は良かった」「自分はこの仕事に向いていないのでは」「社会人として能力がないのか」というものだったのでは…。

その結果、このコミュニケーションで伝わったこと、つくり出し

たものは、「部下の自己否定」と「信頼関係のひび」です。

上司が、「部下に良くなってほしい」というコミュニケーションの意図をしっかりと自覚していたら、変えられない過去を責めず、責任を取るために今後の対応に目を向け、何があれば今後同じ失敗がなくなるかをともに考え、一番意気消沈している本人を勇気づける言葉をかけたかもしれません。

【エピソード】ほんとうの願望に気づいた母親

あるお母さん(A子さん)からの相談でした。

彼女の父親は開業医。立派な医者である父親を見て育ったAさんは、一人息子(B君)にも医者になってほしいと願っていました。しかし、小学校6年生になって急に成績が落ち、塾からは、このままでは医学部への進学率が高い地元の有名中学に進めない、と言われました。

彼女は、B君が勉強しやすいようにと、塾の送り迎えから宿題のスケジュールリングなど、彼女が出来ることは時間を惜しまず手をかけました。5年生までのB君は、素直にAさんのいうことを聞いてくれたのですが、最近では思春期に入ったこともあるのか、あまり話をせず、機嫌が悪くなると怒鳴り散らし、彼女の不安は募るばかりでした。

相談に来られたAさんに質問しました。

私:「あなたの子育ての目的は何ですか?」

Aさんの本当の願いに目を向けてもらうために、最初に必要な質問です。

A:「彼には、尊敬される人になって豊かな人生を送ってほしいです。しっかり自立してほしい」

子どもの幸せを願う気持ちでいっぱいなのです。

私:「尊敬される、自立した人って、どんな人なのでしょうね」

A:「心が広く、大切なことをしっかり見つめ、責任感のある、人のせいにならない人でしょうか」

私:「なるほど。では、今のAさんの関わりは、B君のそれをはぐくむ関わり方ですか?」

A:「……」(しばらく考えて)

A:「私のやってきたことは、それとは反対のことばかりだったかもしれません」

その後、少しずつAさんは変わり始めました。

Aさんは、「今までの関わりは、自分の価値観に子どもをはめ込み、彼の依存心を高めていたのかもしれない。この子の生きる道は、私が選ぶのではなく、この子が選ぶんだ」と気づいたのです。

~~~~裏へ続く~~~~



彼女は、B君が責任感のある自立した人に育つために、まず、本人の意見に耳を傾けました。彼のことを自分で考える力が伸びるように、彼の考えを尊重しました。彼の生きる力を信じて、見守っていくよう努めました。

人の本当の願望は、目の前の現実には翻弄され、意識の下に隠れてしまうことがよくあります。しかし、本来の意図に意識を向ければ、うまくいかない現実を効果的に変えていくこ

とができます。そして、得たい未来を手に入れることができるのです。

**オフィスハーモでは、人材育成のための「効果的な研修」を提供しております。参加者の方々のお悩みをすべて取り上げながら現場で役に立ち、結果が出るような仕組みもございますので、お気軽にご連絡ください。**

お読みいただきありがとうございました。



また、忘れた頃にお届けするような形になるかもしれませんが、またこうして片思いでもご縁が繋がることをうれしく思います。バックナンバーをご希望の方や、万が一ご不要の場合も、下のメッセージシートにご記入いただきFAXいただくか、メール (naho@k.email.ne.jp) をいただけますよう、お願いいたします。お読みいただき、ご意見感想などもいただけましたら、今後に反映していきたいと思っております。いつでもお待ちしております。

|    |  |
|----|--|
| 感想 |  |
|----|--|

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| お名前 | もしよろしければ連絡先を！(mail・FAX・ご住所など) |
|-----|-------------------------------|

ありがとうございました。

～当事者意識と考える力を育てる方法～  
研修、講演会のご相談お受けします。  
(有)OFFICE HARMO 代表  
NPO法人マザーズサポーター協会理事長  
喜田菜穂子

naho@k.email.ne.jp 080-4393-4255  
FAX 078-731-0615

